

2022. 2. 27 (日) マタイ28:16~18

28:16 さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示された山に登った。

28:17 そしてイエスに会って礼拝した。ただし、疑う者たちもいた。

28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

<説教>

本日の聖書箇所を始め、28章16節は直接的には10節の続きとなります。

イエスの墓に来た二人のマリアにイエスは「恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。」と言われたのでした。(10)

その間の11-15節には、ユダヤ人の祭司長、長老たちが集まり協議して、「イエスの弟子たちがイエスのからだを墓から盗んで行ったと」という嘘がユダヤ人の間に広まるように企てたことが記されていました(福音書の中ではマタイだけがそのことを記しています)。

〈イエスが指示された山〉(16)がどこなのかはわかりませんが、〈その群衆を見て、イエスは山に登られた。そして腰を下ろされると、御許に弟子たちが来た。そこでイエスは口を開き、彼らに教え始められた。〉(5:1-2)を始めとして、イエスはしばしば〈山〉で語り教えられ、力ある御業を行い、またご自分の栄光を現して来られました。

よみがえりのイエスは山でご自分の弟子たちにご自分の権威を宣言し、弟子たちに使命を与え派遣し、約束を与えられたのです。

そのことによって、かつて弟子たちをお召しになり、お教えになり、病人を癒やし悪霊を追い出し、多くの人々を養われたイエスと、十字架で殺されたがよみがえられた栄光のイエスは同じだということを弟子たちに改めてお示しになったのもありましょう。

弟子たちは〈イエスに会って礼拝した。ただし、疑う者たちもいた。〉(17)とあります。

イエスのよみがえりの証言を信じなかった弟子たちの不信仰についてこれまで記していなかったマタイでしたが、ここで〈ただし、疑う者たちもいた〉と記します。

ユダヤ人の祭司長たち長老たちの悪巧みについて記している(28:11-15)のはマタイだけですが、逆にマタイは記しておらず、他の福音書には記されていることがあります。

それは、よみがえられたイエスがエルサレムとその近辺で弟子たち(十一弟子や他の弟子たち、そして女性たち)にご自身を現してくださったこと、よみがえりのイエスと会った弟子たちの証言を、他の弟子たちは信じようとしなかったことです(イエスを見たときは彼らは喜んだのですが)。(マルコ16:12-14。ルカ24:9-43。ヨハネ20:19-29)。

そのような弟子たちの姿(特にイエスのよみがえりの証言を信じようとしなかった不信仰、疑い)についてマタイはそれまで記していませんでした。

しかし、その分、この〈ただし、疑う者たちもいた〉という短い一言に、逆にマタイの驚きがよく表されているようにも思います。

よみがえりのイエス〈イエスに会って礼拝した〉弟子たちの中に、〈礼拝し〉ながらも〈疑う者たちもいた〉とは何ということか、と。

しかし、それがイエスの弟子たちの中にあった事実、現実でもあり、マタイはそのこと

を正直に書いたとも言えます。

また、マタイが後にこう記すことができたのは、あのとき疑った者たちが、その時、または後になって、疑っている（いた）ことを告白したからだとも言えるわけで、それはそれで素直で正直な態度だとも言いうこともできるでしょう。

いずれにしても、〈イエスに会って礼拝した。ただし、疑う者たちもいた。〉という弟子たちの現実、事実は今の私たちの現実、事実でもあるに違いありません。

私たちはイエスのよみがえりを、よみがえりのイエスを本当に思いと言葉と行動において徹底的に信じ、従っているか、〈礼拝〉しているのか、心探られるのです。

さてしかしイエスご自身は、「なんだ、ここに来てまだ疑う者たちがいるような集会とはもうおさらばだ」などとは言われず、反対にそんな弟子たちのところに更に〈近づいて来て、…言われた〉のでした。

つまり、なおもあわれみ深く、忍耐強く、いわば懇々（こんこん）と語りお教えになり、ご自分の前に、ご自分のみことばの前に弟子たちを立たせなされるのです。

「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。」とご自分の父なる神から〈与えられてい〉る絶対的な〈権威〉をイエスは宣言なさいました。

〈天においても地においても〉とは、文字どおり、全世界、全宇宙、私たち人間の目に見えるもの見えないもの、考えつくもの考えの及ばないもの、一切合切（いっさいがっさい）において、ということです。

〈権威〉とは、物事を自由に決定し、実行する力そのもののことです。

もちろん、イエスは永遠の神の独り子、即ち神としてその〈権威〉を持っています。

しかし使徒パウロが言うように、〈キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。〉（ピリピ 2:6-9） また、〈この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。また、神はすべてのものをキリストの足の下に従わせ、キリストを、すべてのものの上に立つかしらとして教会に与えられました。〉

（エペソ 1:20-22）

イエスは神であられることはそのままに、私たちと同じ肉体とたましいを持つ人間としてこの世に来られ、私たち罪人のために、私たちの罪を負って十字架で死なれ、神への完全な従順を果たしてくださいました。

〈それゆえ神は〉イエスを人間としても永遠に死なないいのちを持つお方としてよみがえらせ、神と共に生きることができる人間として受け入れ、（神であるお方としてはもちろん）人間としても「天においても地においても、すべての権威」を持つお方とされたのです。

この〈権威〉力をもってイエスはご自分を信じる者、私たちキリスト者の罪を洗い流し取り除いてくださり、ご自分と同じ死んでも生きる永遠のいのちを私たちに与えてくださり、ご自分と同じ人間として、神の子として父なる神の前に立たせ、受け入れてくださる

ようにとりなしてくださるのです。

そうやって私たちを悪魔と罪の支配から救うためには天と地のすべてのことをご自分のみこころのままにお用いになる、そのことを自由に決定し、完全に行われる権力、能力、それがイエス・キリストが父なる神から与えられた〈権威〉です。

この世の全ての人間的な「最高権威・最強権力」もキリストの絶対〈権威〉と並ぶものはなく、その下にあり、もちろん私たちキリスト者・教会もその〈権威〉に服するのです。